

令和 8 年度 第 1 回川崎市社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和 8(2026)年 6 月 14 日(日) 10:00 ～ 12:00
- 2 開催場所 かわさき宙と緑の科学館 2 階 学習室 2
- 3 出席者 委 員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、吉澤委員、
長谷川委員、今井委員、松本委員
事務局 阿波園長、藤川担当係長、葉山担当係長、齋藤主任

4 議題

- (1) 博物館の事業評価について
- (2) 令和 8 年度日本民家園事業評価シートについて

- 5 傍聴者 0 名

6 会議内容

- 1) 園長挨拶
- 2) 会議成立の確認
- 3) 民家園職員、各委員自己紹介
- 4) 資料の確認
- 5) 部会長、副部会長選出
- 6) 報告事項
- (1) 令和 7 年度事業評価シートについて

資料を事務局より説明

7) 議事

[博物館の事業評価]

<資料「日本民家園専門部会における評価の実施について」>

意見等なし

[令和 8 年度川崎市立日本民家園事業計画・評価シート]

資料を事務局より説明

<令和 8 年度目標値>

松 本 委 員：2022 年、23 年と比べて外国人の入園者数は大幅に伸びているが、国内の総入園者数は横ばい微増で、外国人の入園者数を総入園者数から引くとむしろ減少傾向にあるようだが、どのように認識されているか。

阿 波 園 長：確かに入園者数は令和 3 年度は 101,647 人、令和 4 年度が 101,125 人で、外国人が令和 3 年度は 1,714 人、令和 4 年度が 3,617 人。それを引くと国内の方は少し減っているのではないかという指摘だと思う。一番の要因と考えられるのが、熱中症警戒アラートの発生件数が令和 3 年度と令和 4 年度は県内で 10 回、令和 5 年度は 23 回、令和 6 年度が 37 回、令和 7 年度が 30 回と非常に増えており、毎月の入園者数の傾向を分析すると夏場の入園者数の減が明らかになっている。また熱中症の対応のため夏場はイベント等を入れずに運営しているので、国内の総入園数の減少につながっているのではないかと考えている。

菅 野 委 員：小学校の見学の数が減っているが、子どもの数の推移の影響はないか。

阿 波 園 長：来園学校数については、令和 5 年度が 166 校、令和 6 年度が 148 校と減少傾向が見られ、R7 年度はインフルエンザの流行とバスなど交通費の予算の関係で影響があると小学校の関係者から伺っている。令和 5 年度は 166 校、令和 4 年度は 149 校、令和 3 年度が 135 校と、一定程度は確保できているが、今後は近隣の学校へアピールは課題であると感じている。

菅 野 委 員：学校での団体見学は子どもが博物館を体験するという重要な機会だと思うので、予算の都合や他の理由で機会を奪われてしまうというのは、なるべく避けてほしい。そのあたりの予算の確保などは園から指摘することではないかもしれないが、関係部署に言っただけだとよいのではないか。

大野副部長：令和 5 年の目標値はコロナによる落ち込みから復活すると見込んで 118,000 人。6 年 7 年はさらに上がって来るだろうと予想し 138,000 人を 2 年間継続している。令和 8 年の目標値として、気候変動の影響を見込むというのはよくわかるが、やはり目標設定の基準を考えた時に、令和 5 年の 118,000 人、有料入園者数 47,200 人に一度戻して様子を見るというのが一つの判断基準かなと思う。結果的に増えているものに関しては実績を参考にして上方修正するという中で、令和 8 年度の実績が減少している学校の数と入園者数、入園料収入を下方修正するのは仕方ないにしても、入園者数に関しては令和 5 年の目標に戻して 1 年間様子を見るというのがいいと思う。いかがか。

阿 波 園 長：確かに目標として高い設定にするという考え方もあるので、118,000 人に戻すということは当然検討したい。他方で工事の関係とは別の要因として、生田緑地ばら苑という非常に集客力のある施設が当面の間休苑中のため、その影響が大きい。また岡本太郎美術館も現在休室で企画展等はやっていない状況が

続いている。令和 6 年度、比較的高い数字を目標とさせていただいたのは、川崎市制 100 周年ということで、通常休園日の月曜日も開園している期間があったため、開園日数も通常より多かった。令和 8 年度は 116,000 人から休園期間の影響を差し引いて 111,000 人としたが、この 116,000 人は実態に即した数字であって、目標としてはどうかという意見はあると思うので、118,000 人に修正させていただくことは可能だと思っています。

高橋部会長：このシートの記載の方法だが、ここには工事によって休園期間とかいう文言がないので、これを見た時に目標値が単に下がっている印象を持ってしまった。休園期間についての記載を入れるとよい。外国人の入園者数について、外国人ということ判断する基準が、以前の話では受付で判断していると聞いた。それは主観的なもので、本来の意図としては地域のリピーターか観光（インバウンド）で来ているか、そういう意味での外国人だと思う。見た目で外国人、言語で外国人という分け方は、今後見直していく必要があるのではないか。ここに外国人と書くのであれば、観光とか国外とかに分けていく必要があるかなと常々思っている。すぐには無理かもしれないが、目標のたて方や園の運営の実態を考慮してほしい。

阿波園長：おっしゃるとおり数字の落ち込みがなぜこうなっているのか分かりづらいので、一番下に開園日数の変遷とかを追記していきたい。

大野副部会長：下を書くよりもこの表の重点目標の右側が空いているので、その辺に運営上の今年度の問題点みたいなことを記載していただけると、この数値が出たというのは分かるかと思う。

高橋部会長：今のご意見を踏まえて、もう一度この目標値と表記については、検討をお願いしたい。

松本委員：先ほど入園者数は減少傾向にあるという話であったが、他の野外博物館の入園者数の推移も見た方がよい。熱中症の警戒アラートが増えたとか、子どもの数が減少したという話は、野外博物館共通の問題なので、他の施設が減っていなければ別な問題が存在することになってくる。今後の対応が変わってくるので、調べたほうが良いと思う。

阿波園長：民家園も参加している全国文化財集落施設協議会で毎年入園者数の集計をしている。そこで熱中症の警戒の関係も問題提起をしており、全国共通の課題ということを確認している。ただ、地域によっては熊の出没などで休園するなど、様々な課題があるが、やはり暑い夏をどう過ごすかは、加盟しているどの野外博物館も課題だと認識している。

高橋部会長：付け加えると、熱中症警戒アラートの問題と災害というのは、野外博物館だけではなく普通の建物の博物館、美術館にも影響が大きく、全国的な問題であろう。冒頭おっしゃったように、今年は、酷暑や台風災害など心配なので注視し

ていきたいと思う。

〔1 伝える博物館〕

＜「(1) 文化財の保存・調査・研究の推進」＞

野 尻 委 員：江向家屋根保存修理設計(2 年目計画 2 年目、耐震補強工事に含む)、これはちょっと意味がよくわからないのだが、どういうことか。

藤 川 係 長：耐震補強設計と一緒に屋根保存修理の設計もやりますよということをいいたかったので、「耐震補強設計に含む」に修正する。

菅 野 委 員：作田家の報告書は今年度の刊行には至らずか。

葉 山 係 長：はい。

野 尻 委 員：報告書は市単費か。

葉 山 係 長：市単費。

＜「(2) 日本の伝統文化を伝えるための展示・教育普及の充実」＞

高 橋 部 会 長：空調工事と休園する期間は、いつ頃でどのぐらいの期間で予定しているか。

阿 波 園 長：まだ正式には決定していないが、12 月の末から 1 月、3 週間程度を想定している。施工の方法によってもまた変わってくるので、はっきりと確定していない。実は入札が不調になってしまい、再入札を秋ごろにかける予定になっている。その再入札をした結果、業者と調整をして工事になる。本館は公共施設にあたるので川崎市全体の取り組みとして実施している「長寿命化工事」として一定の期間で更新していく。その関係で、事務室や常設展示室、企画展示室の空調を全部組み替えるという大掛かりな工事になる。本館は、券売場を通過して入園するので、そこが通過できないという状況と、あと職員が事務室の中にいられない状況が発生する。その辺が決まってから正式な報告をするが、現在 12 月の末から 1 月上旬の 3 週間程度休園で調整している。

高 橋 部 会 長：それを踏まえ、今回の企画展は 1 本なのか。

阿 波 園 長：企画展示室の上側にエアコンがあり、全面的なリニューアルが必要なため、本来 2 本実施したいところだが、企画展示室はずっと閉鎖して工事をしなければいけないという状況が見込まれるため、今回は、年 1 本ということで予定している。

高 橋 部 会 長：昔話公演や年中行事展示などは、回数や種類は変わらず大丈夫なのか。

阿 波 園 長：本館だけの工事なので、古民家を会場とする行事については同じ回数で実施する予定。

吉澤委員：学校教育のニーズに合わせたプログラムに充実していただき、ありがとうございます。小中学生は1人1台端末ということで、GIGA端末を全員持っている。ちょっと昔の授業では全く想像できないと思うが、消しゴムを使う感覚で、普通に小学生がGIGA端末を使って、授業の中で調べていく。「使って」ではなくて、「自由に使っていていいよ」という状況のなかで、学習資料というのは、どのあたりを対象に資料を作っているのか。

藤川係長：GIGA端末での教員向け資料は、3年生の学校体験向けの資料を出している。あとは、YouTubeで小学生向けの動画を出している。

吉澤委員：小学校の社会科は小3から始まって、身近な地域のマップ作りなどで、身近なところからだんだん世界に広がっている。中学校に入ると逆で、中1で世界を学んで、中2で日本を学んで、中3で身近なところに入ってくる。小中社会科のプログラムはこのような組まれているので、社会科の教員として小3をターゲットにするのはすごくいいかなと思う。あとは中学2年で職場体験がある。高校や周辺の中学校しか受け入れがない場合もあるが、中2から中3にかけて身近な地域を扱っており、小学校とは違う視点で取り組んでいるので、ぜひ受け入れてもらえればと思う。

阿波園長：教科書との関係も確認して、できればそういったところとも連携していきたいと思う。

松本委員：以前、音声ガイドサービスについてスマートフォンのAndroidは使えて、iPhoneは確か不具合が生じていて使えなかったと思うが、今も同じ状態か。

藤川係長：直近で確認したところiPhoneでの接続もできたので、解消している。

〔2 安全・安心な博物館〕

<「(1) 利用者と文化財建造物を守るための対策の推進」>

大野副部長：設備や免震装置を設置した後の維持にお金がかかるが、うまく予算はとれているか。

葉山係長：おっしゃるように消防設備やカメラも5年過ぎたあたりから故障が多くなっている。普通の予算ではとても対応できないので、稼働状況をキープするためにも、設備補修事業費という小事業費を別立てにして、ある程度更新事業を盛り込んだ予算の計画を立てた上で、各年度にかかる費用を計上して予算取りを行うという形に変更し、一応確保できている。

大野副部長：私が居た時も1棟移築する費用がだいたい2億として、1棟当たり年間管理費200万円ぐらいかかると企画の方は思っていたようなので、25件で50億以上の施設を持ってるから管理費で年間2000万円ぐらいなら安いものでしょうみたいな説明をしていた。企画の人にたまに来てもらって、工事の

様子や園内を見てもらい、これだけのものを維持するのには、お金が必要と
いうのを説明していた。ぜひ園長さんには担当者に園内を案内するという
ことを年に 1 回ぐらいやっていただくと良いかと思う。今もやっているの
か。

葉山係長：異動があったので先月末に財政の方と庶務系の方に園内の要所やこれから
要求しそうな部分は特に目にさせていただいている。

大野副部長：小学生にも古民家を使って昔の生活を伝えてとか、ボランティアの方が頑
張ってるとかいうタイミングもぜひ見ていただいて、総合的に川崎市の宝だ
っていう意識を継続的に持っていただく取組をぜひ続けてほしい。ここには
書けないかもしれないけどどこかに活動を継承する意義みたいなものがある
といいと思う。

菅野委員：工事で一定期間休園するということであれば、ふさわしい季節や、発注関係
でその時期に合わせられるのかという問題はあるが、植栽の高所作業車を入
れて、枝下ろしをするなど、休園期間中でお客さんがいなくなり、大掛かり
なことができるチャンスに合わせてやることも考えていいのかなと素人考
えでは思う。また、植栽だけではなくて、建物の手入れや、事務室も移転し
ないといけなような状態の中で、管理しきれんかという問題があるかもし
れないが、なるべくお客さんに影響がない時にまとめてやってしまうという
考え方はあるのかなと思うが、いかがか。

阿波園長：おっしゃる通りです。休園期間を設けるのであれば、来園者に影響があり、
今までできなかった工事をこのタイミングでできればと調整をしている。ま
た、本館の周辺について福祉のまちづくり条例関係のバリアフリー化の工事
は、このタイミングでやっていきたいと考えている。高所作業も今までは休
園日を使って行っているが、長期間に係るものがあれば、このタイミングで
やっていきたいと思っている。

高橋部長：民家の中の民具の清掃などもこの時期にできれば良いかと思う。

<「(2) 野外博物館としての園内整備、植栽・植生管理の推進」>

菅野委員：空調の工事は収蔵庫系統も行うのか。

阿波園長：本館の中は全て、地下収蔵庫も含めて実施の予定。

菅野委員：収蔵庫と、一般の展示室、事務室は、湿度調整とかで空調系統が分かれてい
るのか。

葉山係長：分かれている。機器は梅雨の時には更新できないなど、いい時期に行わなけ
ればならないのと、不確定の要素として、発注した後の工事の方がどう段取
りできるかにもよるが、系統毎にかけられる期間がピンポイントで可能かど

うかの調整が必要になり、機器の発注でいつ納品されるかによって工事の日程ががらっと変わりそうなので、系統毎に影響にない範囲を探りながら工事の工程を進めていきたい。

菅野委員：展示室とか事務室だと冷暖房だけかもしれないが、収蔵庫だと恒温恒湿状態を維持するというのは機械を変えてすぐ安定するかという問題もあると思う。そこら辺は慎重に見ていただきたい。最近の空調機は性能がいいから大丈夫かとも思うが。

高橋部会長：さきほど再入札は秋ごろという話だったが、それまでは入札できないのか。それが心配である。

葉山係長：この何カ月でまた情勢が変わる可能性があることが不安なところだが、それまで入札はできない。ただ、不調の状況が全然かけ離れていてダメというわけではなかったようなので、順当に行けばきちんと再入札で行けるはずというような情報はもらっている。

高橋部会長：これは指名業者か。

葉山係長：一般競争入札だが、設備ということで限られた分野の入札になっているので、次は何とかと思っている。市の公告の手続きの都合もあり、次の入札の準備が整って決裁をとってから1カ月ぐらいたたないと入札の日を迎えられず、2カ月ちょっとかかってしまう。今から準備しても再設計のようなことが必要となってくるので、契約は秋になるようだ。

高橋部会長：事態が好転するかもしれない。それを期待したい。

長谷川委員：日陰に座って休める場所の確保とか夏の暑さ対策がとても大変だと思うが、入り口から見たときに、ちょっと殺風景かなと思う。親子で訪れた方たちや若い方たちも大勢いるので、例えば、風鈴などをぶら下げたり、うちわを飾るなど、見栄えの良いような涼しげな仕掛けをすると、「ちょっと寄ってみよう」となるのでは。何か考えているか。

阿波園長：夏場は、夏座敷という年中行事がある。風鈴は、実際展示をしており、台風が来る時は全部片付けるが、今年も展示をする予定。また昨年、試行的にミストを入り口のところ設置したが、風の向きなどでいろいろあって今年もやるかは未定。あと、子ども向けに、みんながっばという民家園のキャラクターをイベントの際に置いているので、検討していきたいと思う。

野尻委員：本館休館の話が出ているが、設備工事をするということか。資料には本館キュービクル及び総合盤更新設計とあるが、工事に設計が含まれているのか。

葉山係長：本館はエアコンだけの工事というのが今年度予定されていて、それとは全く別で、園内全部に引き込んでいるおおもとの電力等のキュービクルは今年度更新の設計をして、来年度取り替え工事を行う。

大野副部会長：キュービクルが本館に付いているが、全体に対して機能するものということ。

葉山係長：本館の脇に園内全体のキュービクルがあるので、このような表記をしている。

高橋部会長：本館と書かなくてもよいのでは。誤解のない表現にしてほしい。

〔3 人の中心にある博物館〕

＜「(1) 指定管理者やボランティア及び地域等と協同した運営の推進」＞

大野副部会長：民家園の60周年ということで具体的な計画案はあるか。

阿波園長：これから検討していくところだが、船越の舞台で60周年の農村歌舞伎を行っていきたい。あと他にも関連イベントを考えている。7月の専門部会の第2回目の際に、来年度の目標設定をする予定なので、予算要求も含めてそこで検討していきたい。

菅野委員：伝統工芸館の工事は、いつからいつまででか。

阿波園長：伝統工芸館はすでに始まっており、6月から8月末まで休館している。エアコン等の電気工事やトイレの位置の変更など。伝統工芸館自体はだいぶ老朽化が進んでいたの、関連する工事すべて含めて、リニューアルということでは施工している。

高橋部会長：今年の企画展は、伝統工芸館がやるということか。

阿波園長：伝統工芸館と市の学芸員が連携してやっている。

高橋部会長：この書き方だと伝統工芸館にまかせて開催するようなイメージがあるので、連携といった言葉を入れた方がよいと思う。それからカプセルトイの値段はいくらか。

藤川係長：300円から500円くらい。

高橋部会長：最近ご当地ものなど手作りのようなカプセルトイをおいているところがあるが、民家園独自のブランド商品は指定管理の方が開発しているのか。

藤川係長：商品開発は指定管理者の方でやっている。今、カプセルトイについては、南砺市のにゃんと氏という猫のキャラクターとコラボした缶バッジを販売している。

高橋部会長：人気があるのか。

藤川係長：その情報はこちらまで下りてきていない。

松本委員：ワークショップのインバウンド対応について、具体的にどういった内容なのか教えてほしい。

藤川係長：工芸館等で行っている藍染めのワークショップなどで外国の方の申し込みも多く、その際は必要に応じて通訳などの対応を行っている。

松本委員：英語に対応できる方が少ないという話があったと思うが、改善されたか。

藤川係長：指定管理の方に一人英語が堪能な方がいらっしゃるの、その方がいれば

対応できるが、必ずというわけではない。

松 本 委 員：イベントについて、地方からお呼びするケースが多いようだが、例えば、川崎市多摩区の周辺でも、獅子舞など身近で魅力のある郷土のイベントがある。そちらに声かけをしてはどうか。近場なのでコスト的にも安価で頻繁に来ていただくこともできるのではないか。

阿 波 園 長：おっしゃる通りで、以前は獅子舞や市内で継承されているものを船越の舞台を活用して企画していた。最近では高齢化が問題になっていて、活動自体もすごく厳しい部分もあるみたいだが、非常に重要な取組だと思うので、検討していきたい。旧所在地交流事業だが、今五箇山の方に実際に来ていただいているが、非常に来園者の方に喜ばれているので、引き続き今年度も予定している。

高 橋 部 会 長：旧所在地のことも重要だが、川崎の民俗芸能団体で市の文化財課等とも連携して可能なところを検討してはいかがか。

<「(2) 多様な主体との事業連携」>

菅 野 委 員：中期目標の方には、新たなミュージアム関連事業への協力とあるが、向こうの方がまだ進んでいないので、やりようがないということで上がっていないのか。

阿 波 園 長：新たなミュージアム関連は、例えば本庁の方でちょっとした展示を合同で行うなど、そういうことも含めて、この3年間の計画の中には入っている。実際具体的な話はまだ上がってないので、生田緑地内での計画については今後ということになる。

大野副部会長：2番の大学の連携で我々も大変お世話になっているが、例えば60周年の企画の時にどんな形で大学が利用をしているのか、パネル展示などで示してはどうか。小学生についても、井戸の体験や荷物を運ぶ体験などすごく喜んで民家園で活動しているので、学校との連携が総合的に見られるようなパネル展示をやってみてもいいかもしれない。他にも、学生たちに来て話してもらおうなどどうだろうか。

阿 波 園 長：ボランティアさんに対する研修などについて連携していきたいと考えている。また60周年については、新しい企画を考えていかなければいけない段階なので、今お話が出た学校との関わり方なども含めてうまくイメージができるように資料などを作成していきたい。

高 橋 部 会 長：このところ南砺市との連携が盛んだが、基本的には様々な旧所在地との連携を探っていくべきで、偏りがあるかな、と思う。一回始めるとそれがサイクルになって、手軽に連携できるが、毎回南砺市ではなく、新規開拓という

か、そろそろ別のところとの連携も探ってみてはどうか。

阿波園長：以前は福島とかも交流があったので、来年度の予算要件に関わってくるが、旧所在地の調査費用を計上してやっていければとは考えている。

高橋部会長：例えば、旧所在地の文化財課との連携とか、あるいは何らかの提携とか、そういうことは、わざわざ行かなくても役所同士で可能なのでは。

阿波園長：過去の旧所在地交流は、現地に何度も訪れて交渉して立ち上げてきたという経過があるようなので、そういったところも含めて、今現在できそうなところを模索していく必要があるのかなと思っている。

高橋部会長：あまり予算や労力をかけなくても観光パンフレットを置くなど、何らかの接点をいろいろな所と持っておいた方が豊かになれるような気がするので考慮していただければ。

菅野委員：観光課とか観光協会とかだと、向こう持ちでやってくれることもあるかと。もちろん、文化財、無形の民俗文化財的なところを確保するっていうのが大前提としてあるにしても、各地に散っているので、全部が全部やっていくのは、大変なことだと思う。ただ、南砺一本でやっていくと、南砺市の都合で今年はいけませんとなるとゼロになってしまうということも年によってはあり得る。来ていただけたところを増やして何年に1回とか、あるいは春は何、秋は何みたいな、そういう形で充実していくのもいいかもしれない。多様な連携先ということでは、せっかく家という文化財があるので、ゆかりの地同士の結びつきを充実させていくことは私も賛成する。

阿波園長：検討させていただく。

<「(3) 広報の強化」>

菅野委員：観光拠点としての活動ということだと、例えば受付のところで、来園者一律に「どちらからお越しになりましたか」と聞いてみることで、近隣の住民なのか、結構遠方の方なのか把握できると思う。わざわざ遠方から来る場合は、観光の要素が考えられる。また、外国の方であっても、どここの国の出身なのか、あるいは日本に居住している方なのかは分かる。そういうところが、今後1の項目を考えていく上で必要なので、データを少し集める努力というのにも必要かと思う。あまり行列しているところでは、なかなか難しいかもしれないがデータが集まればターゲットが結構絞り込めてくるのかなというようにも思うが、どうか。

阿波園長：スタッフが券売におり、料金の関係で一応市内の在住者ですかいうお声がけはしているが、それよりさらにデータ等を集めるというところで言うと、どのような取り組みができるのか、他の博物館の情報を集めて検討してい

たいと考えている。

藤川 係 長：今 QR コードを読み込むタイプのアンケートを実施しており、その中では「どこから来たか」などの質問もある。それを見ればわかるが、あまり回答数が多いわけではないので、回答数を増やしていくよう検討していきたいと思っている。

菅 野 委 員：先だって、博物館におけるアンケート調査に関する記述を読む機会があったが、いわゆる社会学的な統計調査の方から見ると、博物館の据え置き型や QR コードのアンケート調査は、スーパーマーケットのお客様の声と同じように一言申したい人がやるものであって、統計学的なデータを取ろうと思うと、入園者すべてに用紙を渡して書いてもらう必要があるそうだ。かなり手間がかかってしまうかもしれないが、そうしないとはっきりした値は出てこないのではないかと saying いた。どこの博物館も据え置き型のアンケート用紙があるので、目から鱗が落ちるような気がした。今の形のアンケートでは、なかなか来園者全般の声を拾い上げるのは難しいかもしれない。一言申したい人の少数意見が偏って反映される可能性もあるため、予算措置等で実現難しい部分もあるかもしれないが、アンケート回答者へのノベルティグッズの配布など答えてもらう気を起こすような仕掛けなど、なるべく意見を取り入れていく工夫が必要かなと思う。

高橋 部 会 長：参考までに、川崎市市民ミュージアムでは、効率的にアンケートを取る日があり、年に数回だが、来館者の皆さんにアンケート用紙を配って、積極的に書いていただくということをやっていた。そうしないとアンケートは集まらない。シルク博物館では、昭和の着物展の時に、織物や布に興味がある人が多く来たので、土日に限って、「アンケート用紙を持ってきた方には、織った紬の布裂を差し上げます」としたところ計 6 日で 358 件の回答が集まった。また、他館との連携展の際には会場に、「どれが一番好きな作品でしたか」というアンケートを Google フォームで実施、その結果を集計して X で発表した。多くの人が「これが良かった」と回答してくださり、ついでの入館者アンケートもかなりの数回答があった。「どれがいいですか」という質問を入れた時と入れない時では、だいぶ数が違った。この時期であればこのような来館者が来るから、こういうことを聞ける、ということを考え、吸い上げたい目的を決めてやってみるといいかもしれない。藍の展示では端切れとか染めた糸、もし予算をかけられるのならちょっとした染めものなどを提供してみると、アンケートがたくさん集まるかもしれない。

大野副部会長：2 番の項目のところに伝統的建築技術や持続可能な暮らしに関する情報発信と書いてある。これは極めて重要だと思うが、内容が具体的ではなく、情報発信をすることが何なのかというのが分からない。例えば建築的に見る

と、前からやっているのは壁土作り。また、子ども大工教室では、一坪ぐらいの小屋ができる木組みの簡単な模型の部材があって、それを組み立てたことがあった。その他に 7 月の民家園防火デーで防災関係の情報発信として、火災の部材などを保管している保存収蔵庫を開けたりしたこともあった。大田家の焼損火事についての講演なども検討していいかもしれない。あと原家に継手仕口のかなり精巧な模型があり、あまり触られると傷むので門外不出みたいになっているが、同じものを頂いているので、触るのがまずいならそれを借りて、触れる形で展示するのもいい。柱に横材を差し込んでいる様子や、部材同士が組んでる様子などを見てもらい、「これが原家の床下に使ってあるものですよ」などと話をしたら、すごく印象が良いと思う。民家園の防火デーは、暑いのでその時期にやるのかどうかというのはあるが、今言ったようなことを防災関係の教育を兼ねてやってはどうか。また、建物の改善なども検討してもいいかもしれない。伝統技術の紹介に関しては、木組み模型が外国人にも喜ばれるし、基本なので、見せる機会を設けるのもよい。60 周年の時は 4 つ企画してやってみるというのはあると思うが、今年はその中の 1 つぐらいを試しにどれくらい手間がかかるかやってみるといいと思う。1 つぐらいなら私もボランティアで参加するので、是非考えてほしい。太田家の場合は確か YouTube に 5 分ぐらいに縮めた記録映像をアップしてははず。そういうのもまた SNS でアップするとか、「太田家の焼損から何年経ちました」みたいな話も出すといいかなと思う。今でもかなり文化財の焼損事故は多く、それに関する関心は高い。変な宣伝になってしまうが、太田家ではこうやりました、というのを公開すると、非常に参考になる。火災になったのは大変なことだったが、それを川崎ではちゃんと活かして、しっかりと後世にも役に立つように活動しているので、その辺もしっかり伝えていくというのはすごく大事なことだと思う。ぜひ協力するので考えてほしい。

高橋 部会長：観光に限らず、民家園の意義というかやってきた今までのことについて発信していただくと良いのではないかと思います。

松本 委員：X と YouTube の継続的な広報活動についてどれぐらいの頻度で更新を行っているか。

藤川 係長：X については基本毎日投稿している。YouTube についてはあまり更新できていないので、投稿を進めていきたい。

松本 委員：X と YouTube は、他の野外施設も力を入れていて、綺麗な写真や動画を見て、行ってみようというケースが多々あり、入場者数の増減に相当影響してくる。フォトスポットについても、数多く作る必要はないが、ここならどこにも負けないというエリアを作っていただいて、重点的に発信するようなやり方がよいと思う。足利フラワーパークが典型的な例だが、敷地は狭いが藤

の花が咲き誇っていて、綺麗な写真や動画を見て多くの方が来園している。
フォトスポットを充実させることも必要かと思う。

X フォロアー数の増加に「3,743 名」とあるが、矢印の先の数値は「14,100 名」ということか。

藤 川 係 長 : 3 月 1 日で 4,100 人 。

松 本 委 員 : 行を変えた方が分かりやすいと思う。

菅 野 委 員 : 継手仕口なんかは、竹中大工道具館が持っていて、時々国立科学博物館などの企画展で見ることができるが、大野先生がおっしゃったように面白いので、ぜひ民家園でもできるといいと思う。結局修理の時も交換部材を継ぐのはそのまま技術を使っている。直す時も、痛んでいてダメな部分はきちんと新しい部材と交換して直しています、ということも含めて紹介してみるといいのかなと思う。焼損部材はまだ重文なのか。

大野副部長 : あれはそのまま。附指定はどうするかという話は昔あったが、そこにあるからいいという話になった。指定解除もされてないので、ちょっとあやふや。

菅 野 委 員 : 法隆寺の焼損部材は、指定になっているはず。法隆寺では焼けてしまって外された部材だが、ちゃんと残っていて、文化財として保存してある、という紹介をしている。民家園でも、防火デーの時に同じようしているということ言ってもいいかもしれない。実際に小屋を開けて見せるっていうのはなかなか大変かもしれないが、映像、動画を使って見せることは十分できると思う。ちょっと思いつきの意見です。

大野副部長 : 今、一応妻側に窓があるので、そこを開けてもらって、防火デーの時だけ窓から見えるみたいな。半地下式なので、意外と窓から見ても全体が見える。ただ、保存処理のため、合成樹脂で固めたので、いつも日に当てておくのは良くないので、常時開けるということはしてないはず。だから一年に 1 回みみたいな形がいいのではないかな。

高 橋 部 会 長 : 特別公開みたいな感じでやれることがあれば。

長 谷 川 委 員 : 旧所在地との交流事業で、いろんな古民家がどこから来たのかというのをもっとアピールする方法を模索したらいいのではないかな。ホームページ等でも、どこからきた建物が民家園にある、というのを、旧所在地とリンクしたりできると、自分の地元の家がここにあるんだ、と訪ねてくれる人もいるのではないかな。子どもたちにも、「ここはこんなところにあった建物なんですよ」という展示があると想像もできるので、そういったところもアピールするといいと思う。

7) その他

今後の予定

8年 8月 第2回部会 令和9年度事業計画について

8年11月 第3回部会 園内視察

9年 3月 第4回部会 令和8年度事業評価について

以上について事務局より連絡。

<12:00 議事終了、閉会>